

CPS / IoT Exhibition へと生まれ変わる CEATEC



巻頭言

一般社団法人
電子情報技術産業協会
常務理事 川上 景一

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 等3団体は、CEATEC JAPAN 2016を10月4日(火)～7日(金)に幕張メッセで開催します。

CEATECは、今年から、CPS (Cyber Physical System) / IoT (Internet of Things) Exhibitionとして、「つながる社会、共創する未来」を皆様にお見せします。具体的には、CPS/IoTによって社会・産業が大きく変革する未来を見て頂き、それを支える日本のIT・エレクトロニクス業界の力や可能性を国内外にアピールして、日本発のトレンドを生み出していく場となります。また、それだけではなく、CEATECに参加する様々な業種、ベンチャー、海外等国内外の広範な分野の企業との交流を通じて、ビジネスパートナーを開拓し、共にビジネスを創る場となることで、出展企業に新たなビジネスチャンスを提供してまいります。

このため、今年のCEATECは、展示エリアを「社会」「街」「家」「CPS / IoTを支えるテクノロジー、ソフトウェア」という4つに分けて、社会や産業がどのように変わるかを分かりやすく示します。

展示エリアの中心には、テーマゾーンを設け、主催者特別企画展示「IoTタウン」を設置して、金融、流通、安心・安全等サービスを中心とする異業種10社が合同出展します。また、特定国立研究開発法人 産業技術総合研究所(産総研)のご協力のもと、AI-人工知能パビリオンを設けて、産総研の他、AIの最先端を行く企業・ベンチャーが集結します。この他、テーマゾーンでは、最先端の研究開発やサイバーセキュリティ等、CPS / IoTに欠かすことができない最新の取り組みを見ることができます。ベンチャー・ユニバーシティエリアもテーマゾーンに置かれます。今年は、昨年2倍の約100社のベンチャー企業が参加します。この中には、イスラエ

ル、インド、ASEAN、アメリカ等からのベンチャーも含まれ、国際色も豊かです。

もちろん、見どころは、テーマゾーンだけではありません。ロボット、自動走行、Fintech、3Dプリンタ等、来場者のご関心に応えることができる充実した展示が行われます。

今年のCEATECでもう一つ特筆すべきことは、海外の他のIoTに関する展示会では見られない、公的組織や政府機関との連携です。CPS/IoTを社会に実装していくには、複数の企業による業種を超えた連携が必要になります。CEATECがこのための「ビジネスパートナーを開拓し、共にビジネスを創る場」であることは冒頭に述べましたが、これに加えて規制や制度を見直していくことが必要な場合も多いと考えられます。IoT推進コンソーシアムをご支援いただいている総務省・経済産業省は、この点を良くご理解下さり、CEATECの後援機関として、発足して1年となるIoT推進コンソーシアムの総会開催、海外ベンチャー企業や「スマートホーム」「モビリティ」をテーマとするマッチングイベントの開催等を通じて、ビジネス現場の実情を政策に反映することができる場として、CEATECをお使い下さる予定です。

最後に、来場をお考えになっている方に、どうすればCEATECを最も役に立つようにご覧頂くことができるかを説明します。まず、CEATECの公式サイト(URL: <http://www.ceatec.com/ja/>)を開いて、「見どころ」「コンファレンス」をチェックしましょう。興味深いコンファレンスやオープンステージが沢山あって、迷うかもしれませんが、自分が聴きたいと思うものを決めて、その前後に展示を見学するのがお勧めです。人気の高いコンファレンスは、既に満員で聴講受付を締め切っているものもありますので、是非、来場前に公式サイトから入場事前登録とコンファレンス聴講予約を忘れずをお願いします。

私たちの生活に欠かすことができないLED照明も、IoTのセンサや通信端末となるかもしれません。可能性を見つけに、是非、CEATEC JAPAN 2016にお越し下さい。お待ちしております。

企画運営委員会の主な活動

【企画運営委員会報告】

8月25日に、第2回企画運営委員会が開催され、以下の案件について、協議を行いました。

① 今年度の海外展示会視察先の検討

海外視察の目的は大きく言うと、「最先端情報の入手」及び「ビジネス候補先の調査」である。企画運営委員会としては、今年度末に、JLEDSの方向性を提示することにしていることから、今回は「最先端情報の入手」を主目的とした視察とすることとし、10/27から開催される香港国際秋季飾展示会の調査を実施することとした。

② JLEDSの方向性の検討

従来のLED照明主体の活動から、「LED+ α 」「ヒカリ+ α 」という観点で新たな活動エリア(+ α)の開拓を図る。このために、上記海外展示会視察、JLEDSシンポジウムおよび技術セミナー等を通じ、市場の動向・会員企業のニーズ等、様々な情報収集を図り、「+ α 」の具現化を図り、JLEDSとして将来的にどのような方向に向かっていくべかの指針を提示すべく、継続的に検討することとした。

(委員長 種市 章 / 豊田合成(株))

【アジア情勢等調査分科会活動「2016 広州国際照明展覧会調査報告」】

出張者：企画運営委員会／海東登（ウシオライティング(株)）、技術委員会／三輪朋弘（豊田合成(株)）

1. 展示会報告

(ア) 展示会概要

- ・会期：2016年6月9日～12日
- ・場所：中国広州／中国進出口商品交易会会館
- ・出展社数：2,399社（23カ国・地域）
- ・来場者数：145,080人（137カ国・地域）
- ・主催者：メサゴ・メッセフランクフルト香港
- ・位置付け：Light + Buildingの姉妹展
- ・特徴：アジア最大の照明／LEDの見本市

昨年まで出展していた中国以外の大手、フィリップ



〈会場全体〉

ス、GE、オスラム、サムソン等は軒並み出展を止めており、ほぼ中国メーカーの展示会という感じであった。日本メーカーもシチズンとパナソニックが周辺機器で小さく出していただけである。来場者も予想以上に欧米系の人達が少なく、香港ライティングフェアで良くある様なOEM先を探している欧米系の業者が商談をしている様な姿は少なかった。また中国の大手器具メーカーの出展も減っているとのことであった。他の展示会でも同様であるが、以前より展示会の重要度が低下している様に思える。

(イ) LEDデバイス

各社社名を見ないと違いがわからない程同じ様な展示で、品揃え／性能的にも横並びの感が強く、自力のある企業が生き残っているという感じで、あとは価格勝負なのだろうということを改めて実感した。目新しい（且つ既に多数の企業が展示）ものは、UV-C（A/BだけではなくCも増えている）とDOB（Driver On Board）モジュールが目立った。フィラメント型の素子もほとんどの企業が展示しており、その用途からほぼ低色温度に対応していた。

(ウ) 照明器具

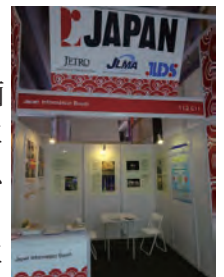
Light & BuildingやLED Next Stageの流れでスマート照明の展示が多いことを期待していたが、意外にただ照明だけの器具がほとんどであった。しかし、さすがに従来の様な一目でLEDとわかる複数チップをそのまま並べたものはほとんど無くなっており、導光板／拡散板を使った面発光やユニークな形状の器具や、フィラメント型LED電球を使ったシャンデリア型の器具が非常に目立った。

(エ) 周辺機器

照明器具とは対照的に、スマート照明に使われる機器／部品の展示は多かった。比較的ローテクな純照明器具では中国メーカーは勢いがあるが、それなりにエレクトロニクス技術が必要とされるスマート照明器具は、この様に多数の機器／部品が出ていても、中国メーカーが参入して来るにはまだしばらく時間がかかるのかもしれない。

(オ) JAPANパビリオン

昨年に引き続き日本企業専用区画「JAPANパビリオン」（日本館）内にJETRO/JLMA/JLEDSの共同ブースで出展し、ポスター展示、パンフレット配布を行った。共同ブースの他に日系企業2社に出展して頂いた。

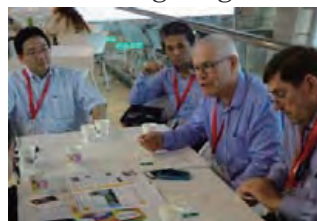


〈JLEDSブース〉

2. 他団体との交流

(ア) Global Lighting Association (GLA)

Global Lighting Association (GLA) の Mr. Bryan Douglas (Secretary General) と面会した。意見交換の際、LiFi（可視光通信）の将来性に対し、肯定的な意見であった。



〈Mr. Bryanと面会〉



〈黄理事長と歓談〉

(イ) 台湾区照明器具輸出入業同業公會 (TLEFA)

台湾区照明器具輸出入業同業公會 (TLFEA) 主催のディナーに招待頂き、友好関係を深めた。

広報委員会の主な活動

1. シンポジウム分科会活動報告

・シンポジウム企画会議の開催

平成 28 年 7 月 8 日に第 2 回広報委員会を開催し、9 月 9 日に日本経済新聞社との共催で「LED 照明シンポジウム 2016」を開催することを決定し、内容について企画会議を開催し討議した。



企画会議では講師の決定を行い詳細依頼を行い、7 月 25 日の第 4 回企画会議で進捗を確認、7 月末より開催告知、参加者募集を行った。8 月 19 日の第 5 回企画会議でプログラム、当日スケジュール、運営分担を確認し 9 月 9 日の本番に挑んだ。

・「LED 照明シンポジウム 2016」実施

< 横井理事長挨拶 > 「LED 照明シンポジウム 2016」は 9 月 9 日（金）日経カンファレンスルームにおいて横井理事長の開会挨拶の後、下記のプログラムで実施された。

13:30 ~ 14:30 基調講演：「IT・IoT 時代に求められる企業競争力と今後の展望」



講師：夏野 剛氏 慶應義塾大学大学特別招聘教授

14:30 ~ 15:15 講演：「IoT の照明活用事例と未来への期待」

講師：横沢信幸氏 ソニーモバイルコミュニケーションズ(株)

15:30 ~ 17:00 パネルディスカッション

< 基調講演（夏目教授） > ション：「IoT 時代の照明と暮らしを予測する」 パネリスト：横沢信幸氏 ソニーモバイルコミュニケーションズ(株)、岩井達弥氏 岩井達弥光景デザイン代表、中村 久氏 (株)乃村工藝社



< 講演（横沢氏） >

今回の「LED 照明シンポジウム 2016」はテーマにある「IoT」が幸いしたのか参加申し込みも出足が良く、途中で追加の動員依頼などすることなく 600 余名の参加登録を頂き、当日参加者は速報値で 355 名とほぼ満席で開催された。

シンポジウムの内容も期待通りで、終了後聴講者から講師への名刺交換の列が長く続いた。



< パネルディスカッション >

2. 会員研修会分科会活動報告

・今年度より、技術委員会、広報委員会で別々に開催

していた会員セミナーを統合し「JLEDS セミナー」として開催していく事となった。

・第 1 回 JLEDS セミナー（旧称 JLEDS 会員研修会）実施

8 月 25 日開催の第 1 回 JLEDS セミナー（旧会員研修会）を開催、講演は 2 テーマで行った。

今回は広報委員会の担当で主催者挨拶のあと、先に実施した二つの海外展示会の調査報告を行った。当日の参加者は 23 名。

講演 1 「TILS2016 (2016 台湾国際ライティング見本市) 調査報告」

講演者：大光電機株式会社 中尾晋也氏

展示会取材を通じて豊富な写真で展示会の様子を紹介。同時に今世界中で話題のアートなりノベーションスポット「松山文創園區」など最新の台北商業施設の現状について報告があった。

講演 2 「GILE2016(中国・広州国際照明展 2016) 調査報告」

講演者：ウシオライティング株式会社 海東 登氏
豊田合成株式会社 三輪朋弘氏

展示会の概要、LED チップ / パッケージ / 照明器具 / 材料 / 周辺部材 / システムソリューションといった視点で報告。現地での交流で知り得た海外照明事情について報告があった。

・今後の JLEDS セミナーで広報委員会企画分は 11 月 9 日（水）東京開催、2 月 3 日（金）大阪開催を予定し、IoT を基本テーマとし、IoT 関連市場動向をテーマに富士経済に（東京・大阪）、IoT 照明活用事例として大阪はソニーモバイルコミュニケーションズの横沢氏、東京の講演者は現在調整中で、照明が IoT に望むことをテーマに照明デザイナーの長町志穂氏（東京・大阪）に交渉依頼中。会場については、東京は JLEDS 会議室、大阪は会員企業施設の借用を打診中である。会員企業以外も有料での募集を行う予定ですので、皆様のご参加をお願いします。

3. 展示会分科会活動報告

・こども霞が関見学デーへの協力

7 月 27 日～ 28 日開催の「霞が関・こどもデー」へは、経済産業省旧非鉄金属課様からのお声掛けで、JLEDS ロゴ入りボールペンと JLEDS パンフレットの配布の協力をさせて頂いた。

・LED JAPAN 2016 への JLEDS ブースを出展

9 月 14 日～ 16 日のに日程でパシフィコ横浜で開催の LED JAPAN 2016 へ JLEDS ブース出展した。

JLEDS ブースでは、LED 照明のできあがるまでや特長を表わす展示 Box やパネルの展示を行った。また、JLEDS 紹介やイベントなどのパンフレットの配布の他、LED 照明信頼性ハンドブックの販売なども実施した。

主催者発表の来場者数は、3 日間で 7,718 名であった。今年は、UV-LED の出展が多く応用技術含め大いに盛り上がっている印象を受けた。

尚、展示会主催者（JLEDS 会員企業：(株)JT コミュ

ニケーションデザイン様)のご厚意もあり、技術委員会との共同企画で、会場内特設ステージでJLEDSセミナーを開催し、JLEDSの露出度アップや展示会への動員協力が果たせた。

・G7 富山環境大臣会合サイドイベント 富山環境展への出展協力

前回7月号での報告漏れ分ですが、環境省からの依

頼で、5月13日～16日開催のG7 富山環境大臣会合サイドイベントの富山環境展へ展示パネル制作協力(コンテンツ提供)及びLED照明の特長を示す2つの展示Boxの貸出しを行った。

(委員長 中尾晋也/大光電機(株))

技術委員会の主な活動

1. 28A①分科会(LED技術セミナー [調査・会員サービス]) 活動報告

・LED JAPAN 2016 会場でのJLEDSセミナー実施

9月14日～16日パシフィコ横浜で開催のLED Japan 2016で、展示会主催者(JLEDS会員企業:(株)JTBコミュニケーションデザイン様)のご厚意もあり、最終日の9月16日会場内特設ステージでJLEDSセミナーを実施した。メインテーマは、「LED製品の設計、計測、評価手法のポイント」とし、下記3本の講演を行った。

① 光を操るLED照明のツボ Part2 講演者:佐野武志氏(サンケン電気(株)) 技術委員

② 熱と光のLED故障要因まるわかり 講演者:星野房雄氏((株)テクノローク) 技術委員長

③ 光を測って、図り、そして計る? Part2 講演者:大嶋浩正氏(大塚電子(株)) 副技術委員長

なお、以上3本の講演で、延べ304名の方にお聞き頂いた。同会場で会期中に開かれた様々なセミナーの中での上位の聴講者数との事で、JLEDSの露出度のアップ、LED技術者へのLED技術情報の提供の他に、展示会への動員にも協力できた。

セミナーに合わせて、今回の講演の基本的なテキストとなる「LED照明信頼性ハンドブック第2版」の会場の販売も実施した。

・今後の技術セミナー(名称:JLEDSセミナー)は10月21日、12月2日及び2月17日で日程決定。セミナー内容としては、下記の様な内容で大学の先生や企業その

他の専門家をお招きして各開催日にそれぞれ3本の講演を企画しており、10月初めから順次参加募集を開始します。会員企業様は勿論、会員企業以外も有料で参加出来ますので積極的なご参加をお願いします。

① LED材料(LED関連) 蛍光体、放熱材料)、

②最新規格動向(DALI、他)

③LEDを脅かす材料(LD、有機EL)

④市場技術動向(可視光通信、コントローラ系、植物育成)

⑤実装技術

2. 28B①分科会(LED照明の光生物的・生理的応答に関する調査研究 [調査・研究]) 活動報告

① LED無影灯の明対する影響(障害リスク) 調査

② LED光の脈動の生理的、心理的影響とリスク評価

3. 28B②分科会(海外文献和訳 [調査・会員サービス]) 活動報告

① IES規格LM-85-14の翻訳(プレゼン資料としてまとめる)

② IES規格TM-35-15の翻訳は延期(28B③と合同で推進協議中)

4. 28B③分科会(測光標準化情報 調査啓蒙 [調査・研究]) 活動報告

① 昨年度実施した電球形標準LEDランプの改良実施。

② 8月31日の照明学会全国大会にて成果発表を実施。

(委員長 星野房雄/(株)テクノローク)

事務局からの報告

【事業活動報告】

1. JLEDS委員会関係

'16/7/8 第2回広報委員会

'16/7/15 第1回技術委員会リーダー会議

'16/8/25 第2回企画運営委員会

'16/9/26 第2回技術委員会リーダー会議

'16/9/30 第3回広報委員会

2. 顧問団体連携会議

'16/7/8 第2回LED照明連絡会

【その他の活動報告】

1. 関係団体活動参加

'16/8/31~9/1 照明学会全国大会(東京)

'16/9/2 照明学会創立100周年記念式典・祝賀会

'16/9/15 日本照明工業会 照明用LED標準化小委員会

'16/9/20 照明学会 学会技術及び照明関連JIS企画委員会

2. その他

JLEDS事務局は、今年度4月から野田1名の体制でしたが、8月末から「倉光修」氏に行事等が有る場合に不定期でお手伝い頂く事になりましたので何卒よろしくお申し上げます。

Japan LED Association

JLEDS NEWS / 第32号

内容に関するご意見、ご質問はJLEDS事務局までお寄せください。
本書の内容を無断で複写・複製・転載することを禁じます。

発行 2016年10月1日

発行人 小紫正樹

発行所 特定非営利活動法人LED照明推進協議会

〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目5番11号

第11 東洋海事ビル6階

TEL (03)3592-1382 (代) / FAX (03)3592-1285

URL <http://www.led.or.jp/>

E-mail info@led.or.jp